

1学期「なれなかったリレーの選手」

ゲームをやりすぎて寝不足になってしまい、リレーの選手になれなかった主人公「ぼく」の姿を通して、大切な場面で後悔しないためにも日ごろから大切にしなければならないことは何なのかを考えました。

子供たちからは「お母さんが声をかけてくれなかったからやめられなかった。」という幼さの見える意見が出る一方で、資料を通して「やりすぎは身を滅ぼす。」「自分で何が大切か気づかないといけない。」といった意見も出てきました。具体的な例をもとに自分の生活を見直すきっかけになりました。

2学期「ロレンゾの友達」

20年ぶりに会いたいという連絡が来た幼なじみのロレンゾに呼び出された3人が、ロレンゾの悪いうわさを聞き、どうすべきか悩む姿を通して、真の友情とはどういうことか考えました。

うわべだけではなく、悪いことは悪いと伝えてあげることができるのも友達で、自分でもそのような関係になりたいと考えた児童も見られました。

児童からは「友達の大切さを再認識することができた」「友達の考えを通して、見方がさまざまあることを知った」などの意見が出され、交流しました。